

松江の文化についての意見

FROGMAN

松江の文化について、一つ一つ上げ連ねて賛美するのは今更の事なので割愛します。

そしてこれからの文化行政についてどうあるべきか？と言う点について、私になりにご意見させていただきます。

文化には経済に結びつくものと結びつかないものがあると思っています。松江、さらには島根には経済に結びつかない地域のお祭りや伝統行事が数多く残り、地域で大事に継承されています。また土地の古い言い伝えや広く知られない墓碑や祭祀の跡などもあります。

さらに子供たちの為に本物のオーケストラや演劇鑑賞、絵画や美術品鑑賞などの美術教育など経済に結びつきませんが、それらも大事な文化教育です。これら経済に結びつきづらい文化は、行政や地域が今後も積極的に支援する必要があると思います。

一方で日本はいま少子高齢化が進み、特に島根県は高齢化先進県としてトップを走る地域です。文化行政から離れる気がしますが、実は文化行政は少子化対策だと私は思っています。どんなに市の予算を投じようが、その文化を継承する者がいなくなるという厳しい現実があると思っています。

またせっかく松江で生まれ育っても遠方の大学に進学し、そのまま県外で暮らしてしまえば松江の文化の担い手になりえません。

少子化対策に加え、松江でも不安のない暮らしを保証する。希望を持てる環境を次世代に残すことが重要だと思っています。

一方で経済に結びつく文化に関しては、松江は非常に可能性が高いと断言できます。

松江城とその城下町、茶の湯とお菓子、小泉八雲、さまざまなお祭りに神社仏閣。品質の高い食に盛んな音楽。どれも全国でも有数のコンテンツだと言えます。しかしながら、コンテンツはどのようなパッケージにして売り出すかが重要です。特にコロナ禍以降、これまでのような観光やお祭り、イベントの開催は厳しい状況が続くでしょう。都心でもビデオ会議やリモートワークが急速に注目を集め、世界中でライフスタイルの転換を求められている中で、従来型の文化政策では思ったような効果を上げられないのは松江に限らず全世界の人々の課題でもあります。

私は最近、プログラミングを習得しています。

その理由は、もはやデジタルは全ての産業、文化、生活において欠かせないからです。

さらに言えば、いま最も付加価値の高い技術は、プログラミングなのです。それは全ての日本人が読み書き算盤を覚えるのと同様に、これからはデジタルを縦横無尽に扱えることが、人間にとって必須の教養だからです。文化においてもそれは言うに及ばず。VRやAR、音声デバイスを活用し、旧来の文化とデジタルを融合し、新し文化の継承と発展を遂げることが必定ではないでしょうか？

世界中のどこにいても松江の怪談を体験できるVRコンテンツなんて、面白いかもしれません。松江の食をより効果的にPRするデジタルコンテンツと通販を展開し、世界中を相手にビジネス。敷居が高いと思われがちな茶の湯の世界をARで分かりやすく親しみやすく展開し、海外の人でも楽しめるコンテンツにする。

文化とテクノロジー、それは一見、相いれない事のように思えます。しかし演劇の世界で蠟燭の明かりが電気の明かりになっていったように、その演劇がフィルムという媒体に記録され映画になったように、新しいテクノロジーは決して文化の発展を阻害するものではなく、むしろ促進するものだと思っています。

そこで提案なのですが、松江市の小中でプログラミングのカリキュラムを他地域よりもより高度に実践することは出来ないでしょうか？

市営のプログラミング教室を開催してもいいかもしれません。松江市民のネットリテラシーを底上げし、裾野を広げるのです。若者が松江の文化を積極的にデジタルで遊び倒し、マネタイズし、産業と文化を両立させるのです。それは決して夢物語ではありません。その理由として、コロナ禍は若者に地方志向という副産物を加速させました。就職情報サイトの4月のアンケートで、転職希望の若者の36%が『地方で働きたい』と答えているそうです。松江で生まれ育った若者が、松江で十分な賃金を得られるとなれば、間違いなく住み続けることでしょう。松江に住み続け、デジタルを思うままに扱える技術を持った若者が、コロナ後の世界でネットを通して松江の文化を生かしたコンテンツを発信する。そして付加価値の高い技術のお陰で若者たちは高い収入を得て家庭を築き、それは地域の経済に結びつかない文化にも還流される。

これこそ松江文化の継承と発展のカギになるのではないのでしょうか？
どうか松江市には“文化”という枠組みだけでなく、部署を越えて横断的に文化行政を支援する枠を作っていただきたいと思っています。

(了)